

	計画期間	基本指針	構成と項目数	目標設定の特徴と課題
第5次	H20－H24 (5年間)	「『行政サービスの向上』と『行政の効率化の推進』」	柱：4 重点的取組事項：14 実施項目：51	51の実施項目中、28項目に数値目標を設定しており、個別の達成、未達成は比較的明確化。 【課題】 実施項目が多岐にわたっており、またアウトプットに留まる数値目標もあるなど、各項目の目標達成がもたらす効果を示すには不十分であった。
第6次	H25－H29 (5年間)	「行政改革・適正な行政運営の推進」	基本施策：3 具体的な方策：15	15の方策中、3つの方策で数値目標を設定。項目を精査し、重点的な取組を示すため、庁内で横断的な取組が必要なものを実施計画の対象とした。期間中の進捗状況による項目の追加・削除方式を採用。 【課題】 主に文章化された目標に対して、各年度での様々な実績が示されるため、的確な評価が難しかった。
第7次	H30－R3 (4年間)	「行政改革・適正な行政運営の推進」	基本施策：4 具体的な方策：12 取組項目：46 (R1実績報告時)	46の取組項目中、26項目に数値目標を設定。第6次の構成を採用しつつ再編成し、具体的な方策に取組項目（評価要素）を設けて指標を定めることで、方策毎の評価基準の明確化を図った。 【課題】 アウトカム指標となる目標の設定。主に検討・実施など、定性的な指標に対する評価は基準が曖昧であり、的確な評価手法の検討が必要。